

國學院大學學術情報リポジトリ

2019年度のCERCとの連携事業について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000578

2019年度のCERCとの連携事業について

日本文化研究所では宗教文化教育推進センター（通称CERC）との連携により、宗教文化教育推進のための教材作成に取り組んでいる。以下では、2019年度の教材開発の成果とCERCの活動について報告する。

（1）宗教文化教育推進のための教材作成について

教材開発に関して、CERCとの共同で宗教文化を学ぶための以下のオンライン教材を既に公開している。①「宗教文化を学ぶための基本書案内」②「世界遺産と宗教文化」③「映画と宗教文化」④「博物館と宗教文化」⑤「宗教文化に関係する基本用語クイズ」

2019年度は、特に②「世界遺産と宗教文化」③「映画と宗教文化」④「博物館と宗教文化」の内容の拡充を図り、データベースへの新規項目の追加のほか、重要な項目に関する解説を執筆、公開した。

②「世界遺産と宗教文化」の教材では、「エヴォラ歴史地区」、「スクーグシュルコゴードン」、「アントニ・ガウディの作品群」、「百舌鳥・古市古墳群」などのページを新規に追加した。③「映画と宗教文化」の教材では、「アンジェリカの微笑み」、「ハッピーエンドの選び方」、「ボクは坊さん。」、「PK」、「インフェルノ」、「奇跡の教室—受け継ぐ者たちへ—」、「ソング・オブ・ザ・シー 海のうた」、「母—小林多喜二の母の物語」など近年公開された映画のなかで宗教文化と関連するものを新規に掲載し、情報を充実させた。④「博物館と宗教文化」の教材では、ホームページの移行にともなうレイアウトの修正を中心に、情報の追記・

整理を行った。①、⑤についても情報収集を継続して行っており、次年度以降も教材の充実を図る。さらに②と④についてはスマートフォン向けの地図アプリ「ロケスマ」と連携して、表示される地図上のピンをタップすると公開されている教材へとリンクされるシステムとなっている。「ロケスマ」をスマートフォンにダウンロードしたのちに、トップ画面→「コラボ・イベントマップ」→「宗教文化教育推進センター」と進み、該当マップをダウンロードすることで、使用することができる。

（2）CERCの活動について

2-1. 認定試験の実施

CERCは2019年度、6月16日（日）に第16回、11月17日（日）に第17回の宗教文化士認定試験を行った。第16回認定試験は、東北大学・國學院大學・関西学院大学・龍谷大学・天理大学・九州大学の6会場で行われ、受験者は17名、合格者は12名であった。続く第17回認定試験は、國學院大學と関西大学の2ヶ所で行われ、受験者は24名、合格者は19名であった。第1回試験からこれまでに372名の宗教文化士が誕生している。

2-2. 「宗教文化士の集い」の開催

宗教文化士へのアフターケアとして、CERCでは年に一度「宗教文化士の集い」を東京と関西の2ヶ所で行っている。2019年度は「第4回宗教文化士の集い」が10月19日（土）に東京、10月26日（土）に関西で行われた。

東京開催の集いでは、矢野秀武氏（駒澤大

学教授)の案内によるタイ国タンマガーイ寺院東京本院の訪問、東洋文庫ミュージアムの見学、企画展「東洋文庫の北斎展」にちなむ山中弘氏(筑波大学名誉教授)による講演「山岳信仰と富士講について」が行われた。講演会後には参加者たちの懇親の場が設けられた。

関西開催の集いでは、天理大学にて山中弘氏による講演「現代社会と宗教の変容」のうち、同大学講師の澤井治郎氏の案内のもと、神殿の礼拝場や教祖殿など天理教教団施設の見学が行われた。その後天理大学にて懇談会が開かれた。

東京では15名、関西では11名の宗教文化士(上級宗教文化士を含む)の参加があった。「宗教文化士の集い」は宗教文化士同士の交流を促すだけでなく、資格取得者の実際の声から、資格の役割や必要なアフターケアについて考えるための機会ともなっている。

2-3. 更新(上級宗教文化士認定)について

宗教文化士資格は取得から5年間の有効期限が設けられており、本年度は第6回・第7回認定試験の合格者を対象とした更新の受け付けが行われた。更新のためには、(a) e-learningによる学習、(b) CERC指定の講演会などの聴講とレポート提出、(c) メルマガの記事をもとにしたレポートの提出、(d) 体験に基づくレポートの提出、の4種から1つまたは複数を選び、計3ポイントが認められることが必要となる。更新が認められると、終身資格の「上級宗教文化士」が与えられる。

第6回認定試験での資格取得者は27名で、そのうち11名が更新のための課題を提出し、更新が認められて上級宗教文化士となった。第7回認定試験については16名の資格取得者のうち8名が上級宗教文化士に認定された。本年度末までに計93名の上級宗教文化士が誕生している。

2-4. 宗教文化士および上級宗教文化士へのサポートについて

CERCでは、宗教文化士の資格取得後も宗教文化に関する情報を得るためのサポートの一環として、「CERCメルマガ」を年に4回、特別号を年に2回発行している。メルマガでは、宗教文化に関わる最新のニュースを解説とともに紹介。また、講演会やシンポジウムの情報も掲載されている。2019年度末時点で、31号まで発行された。特別号は、9月に第3号、2020年3月に第4号が配信された。特別号には、宗教文化教育推進センターの運営委員によるリレーエッセイ、宗教文化に関わる新刊の紹介、宗教文化士の体験レポート、宗教文化士の集いの報告が掲載されており、さらに充実した情報提供が行えるようになった。

また、宗教文化士へのサポートとして、住所やメールアドレスの変更を連絡するためのフォームも提供しており、連絡先の円滑な反映と、資格更新の際の連絡や、メルマガの配信の際の不達の減少につながっている。

2-5. 宗教文化士認定試験の受験資格の拡充について

さらなる宗教文化教育の発展を目的とし、新たにe-learningの受講および課題の提出による受験資格の拡充を試みることに決定され、準備が行われている。大学生の受験資格を「e-learningコース」と「大学での単位履修コース」の2つ(名称は仮)にわけること、宗教文化に関する授業を設置していない学生でも受験資格を得ることが可能となる予定である。また、従来の教員・報道での受験枠を廃止し、e-learningコースに統合することで、社会人の受験枠も拡張され、受験者のさらなる増加が見込まれる。

(小高絢子・村上晶)